

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス グランデール				公表日	R8 年 1月 9日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	十分なスペースが確保できるよう考慮して配置している。	物品整理などを行い、今後もスペースが確保できるように継続していく。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		他の部署からも協力できるようにし、基準以上の職員を配置している。	1:1の配置ができるよう今後も出来る限り継続していきたい。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		トイレ等バリアフリーになっている。また、空調を入れる等対応している。	継続していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		業務終了後に日々清掃を行っている。	相談事業が同フロアにある為、子供が気を使っている事もある。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個別の部屋とパーテーションをどちらも準備している。	よりよくスペースが使えるように継続していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	毎月3回程会議が出来る時間をとっている（プログラム、支援計画等）	継続していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		伺った意見をもとに会議で検討し、改善を図っている。	継続して共有していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	定期的な会議で意見を出し合っている。	個別に聞き取りなどを行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	現在外部評価を行っていない。	今後導入を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	外部講師による研修やイーラーニングを取り入れている。	職員全員が積極的に研修に参加出来る様意識を高めていく。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		法人ホームページにてプログラムを公表している。	適切なプログラムが作成出来る様、職員で検討していく。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		アセスメントや日々の活動の中で課題を見出し、支援に繋げている。	適切なアセスメントが出来るよう努めていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		定期的な会議により、情報を認識の共有に努めている。	今後も子供一人一人について、共通理解を深めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	共有された計画をもとに支援を提供している。	継続して支援を行っていく。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3	活動の様子など様々な行動にアンテナをはり、より理解を深めようとしている。	標準化されたツールの使用は今後検討。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		5領域が組み込まれた内容となる、具体的な支援目標と支援内容を定めている。	今後も検討を重ねていき、必要に応じて項目を変更していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		プログラム会議を定期的に実施している。	今後もチームで検討していく。	

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		イベントやプログラムを随時見直し、新たな取り組みの導入を図っている。	引き続き継続していく。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		PTなどの個別活動と、皆で取り組む集団活動の両方を取り入れている。	引き続き継続していく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	4	可能な限り打ち合わせを行っているが、毎回「必ず」ではない。	可能であれば当日、翌日に振り返りが行えるようにしていく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	「必ず」ではないが、共有が必要な情報はLINEWORKSですぐに共有している。	引き続き情報共有をしていく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		記録を見返す事で、振り返りと改善、見直しを図っている。	引き続き継続していく。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	定期的に実施できている。	引き続き継続していく。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7		自立、体験、地域交流、自発的参加など基本活動を重視している。	地域交流の機会については放課後の限られた時間内では難しく、今後長期期間中に地域交流が出来ないか検討していく。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		自ら参加し、決定できるよう意識してプログラムを選定している。	引き続き継続していく。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	3	サービス管理責任者や管理者が出席している。	引き続き継続していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	4	連携を十分に取れていない。	連携を十分に取れていない機関もあり、今後拡充を図っていく。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	随時連絡を取り合っている。	引き続き継続していく。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	4	情報共有できていない事業所もある。	就学前に保育所や幼稚園、認定こども園に通われている子供がいないので、今後そのようなケースがあれば情報共有していく。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	卒業後の事業所に馴染めるよう、情報提供を積極的に行っている。	引き続き継続していく。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	相談支援専門員を交えて連携を図っている。	必要に応じて検討していく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	6	現在、交流や地域の子供と活動する機会はない。	今は無いが、今後取り組んでいきたい。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	お声掛けを頂ければ、極力参加するようにしている。	必要に応じて検討していく。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時などに活動の様子を伝えたり、気付いた事等情報共有している。	引き続き継続していく。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特訓等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	ご家族が参加出来る研修は現在作っていないが、外部の研修案内は配布している。	今後検討していく。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明をしている。	引き続き継続していく。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		アセスメント、モニタリング、送迎時の会話など様々な場面で意向の確認を行っている。	引き続き継続していく。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		面談にて説明、同意を行っている。	引き続き継続していく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2	5	ニーズに応じて対応している。	引き続き継続していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6	保護者会は実施できていない。	今後検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		速やかな情報共有により対応と改善を図っている。	引き続き継続していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		通信の発行、HP、SNSでの発信をいずれも行っている。	引き続き継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		基本情報は鍵付き書庫に収納している。	引き続き継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		電話だけではなく、LINEなども活用している。	引き続き継続していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	法人全体で開く音楽イベントは、地域の方にも観覧して頂いている。	引き続き継続していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	防犯を想定した訓練は行っていない。	様々な状況を想定した訓練を実施していく様検討していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCP策定している。避難訓練などを実施している。	引き続き継続していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		アセスメントにて確認している。	引き続き継続していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アセスメント時に確認している。	引き続き継続していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全には最大限の配慮を行っている。定期的な避難訓練、消防訓練も実施している。	引き続き継続していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	アセスメントや面談にて伝えている。	引き続き継続していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		会議での共有と対策の検討を行っている。	引き続き継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		法人全体で虐待防止委員会の設置及び虐待防止研修を実施している。	引き続き継続していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	現在、身体拘束は行っていない。必要が生じた場合は十分に説明をする。また身体拘束廃止委員会で検討していく。	必要が生じた場合は十分に説明をする。